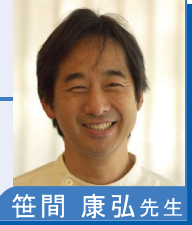


歯周病原細菌の抑制と口腔症状の緩和

■ 医療法人社団心幸会 ササマ歯科クリニック院長 笹間 康弘先生



笹間 康弘先生

【目的】

これまで免疫力向上、う蝕菌の減少、カリエスリスク低減などが示唆されている『乳酸菌生成エキス』を用いて、口腔内細菌や歯肉に対する影響を検討した。

【対象および方法】

被験者A/50代男性・軽度慢性歯周炎患者、B/50代女性・軽度慢性歯周炎患者、C/60代男性・広汎性重度慢性歯周炎罹患（喫煙者）の3人に対し、乳酸菌生成エキス（希釈タイプ/10ml）を朝夕各1本、3カ月間飲用してもらい、①う蝕原因菌②唾液量・緩衝能③PD（歯周ポケットの深さ）④BOP率（歯周ポケットからの出血率）⑤被験者Cのみ歯周病原細菌を測定した。尚、期間中はスクレーリング、SRP、ホームケア指導等は行っていない。

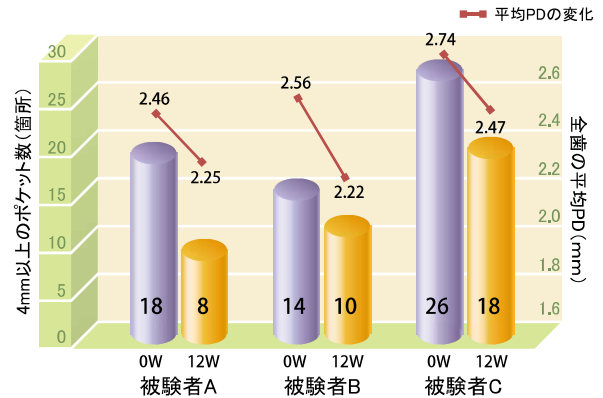
【結果】

- ①う蝕原因菌：A・BはS.m菌・S.s菌比率及び乳酸桿菌数はいずれも良好に維持され、CはS.m菌比率が0.52→0.026%、S.s菌比率が1.9→0.026%と低下し、乳酸桿菌数は220,000,000→51,000,000cel/mlと約1/4に減少した。
- ②唾液量・緩衝能：Aは量・緩衝能とも維持（12ml/5分・青）され、Bは共に向上（4.5→7.0ml・緑→青）し、Cは緩衝能は変化がなく唾液量が増加した（3.6→5.1ml・緑）。
- ③PD：4mm以上のポケットがAは18→8箇所となり55.6%改善、Bは14→10箇所28.6%改善、Cは26→18箇所30.8%改善し、全歯の平均PDは3名とも低下した。（Fig.1.）
- ④BOP率：Aは31.5%→16.0%、Bは52.0%→13.6%と改善し、Cは7.5%→5.3%と良好に維持された。（Fig.2.）
- ⑤歯周病原細菌：飲用前検査で検出された3菌種（A.a.菌 P.g.菌 T.f.菌）の対総細菌比率が34.5%→7.4%と低下した。（Fig.3.）

【考察】

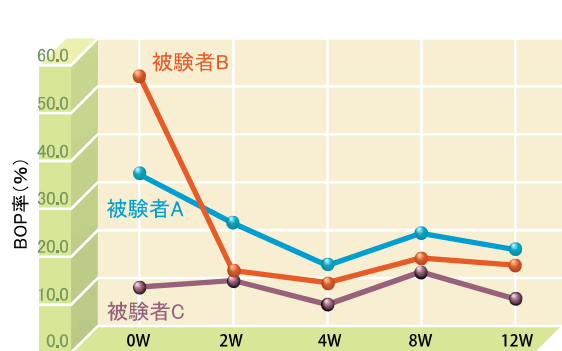
う蝕原因菌や歯周病原細菌の比率が低下し、唾液量の増加・緩衝能の向上が見られたことから、『乳酸菌生成エキス』の飲用は口腔内細菌バランスを良変させ、感染リスクを下げる可能性が示唆された。また同時にPDやBOP率の改善もみられたことから、口腔内症状を緩和し、歯肉状態を向上させることが示唆された。歯科的な処置を行わずPDやBOPに改善傾向が見られたことから、エキス飲用が宿主免疫力を向上させ、口腔状態を良変させた可能性が推測される。今後は、多数症例での試験が必要である。

Fig.1. 4mm以上のポケット数と全歯の平均PD



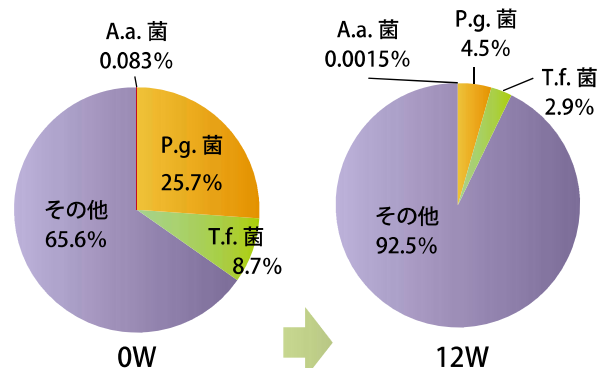
治療が必要とされる4mm以上のポケットが改善

Fig.2. BOP率の推移



3名ともBOP率が20.0%を下回り歯肉状態が改善

Fig.3. 歯周病原細菌の割合（被験者C）



歯周病原細菌（P.g.菌、A.a.菌、T.f.菌）割合が減少